

# データ利活用等のデジタル化の推進による社会課題・地域課題解決のための実証型研究開発

## データ・サステナビリティのための実世界データ醸造基盤

**研究概要：**大量の実世界データが収集可能になり、データ爆発と呼ばれて久しいが、大規模データを持続的に活用し続ける方策が十分でない。本研究では、持続的にデータを活用する「データ・サステナビリティ」を実現するために「醸造」のメタファを導入し、仕分け・発酵・濾過・貯蔵・熟成といった継続的・長期的な実世界データ処理プロセスを実装し、データを実社会で持続的に活用する「**実世界データ醸造基盤**」を構築する。また、実証実験を行い、4組織・5種類以上の移動データと連携し、発酵・濾過・熟成後の移動データは、データ収集から5年後経過した時点で、元データの1/10程度に圧縮することを目指す。

### 移動データ収集システム

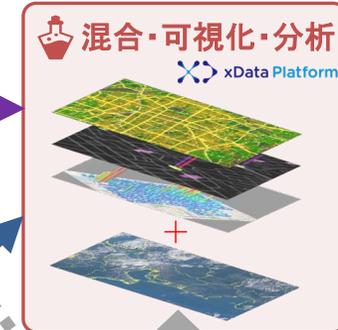
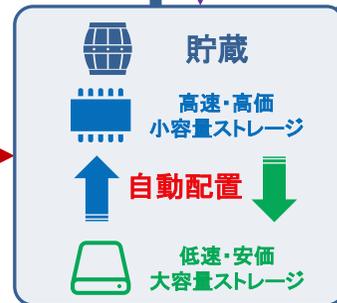
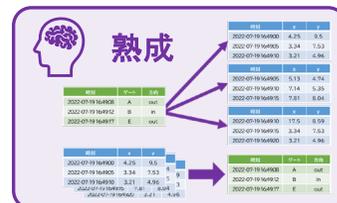
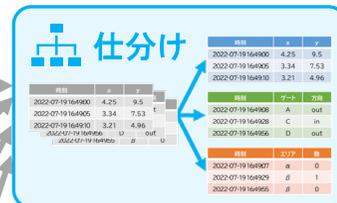
**人の移動データ**  
(移動履歴, 通過, 滞留)

**バスの移動データ**  
(乗車人数, 遅延時間)

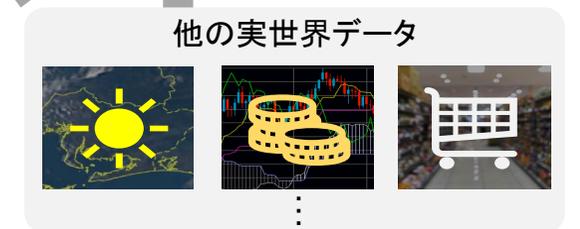
**電車の移動データ**  
(乗車人数, 遅延時間)

**車両の移動データ**  
(走行軌跡)

### 実世界データ醸造基盤



実証実験を通じて、渋滞  
マーケティング  
感染症対策  
など  
都市の様々な  
課題に対して  
新たな知見を  
獲得



**【研究開発期間】** 令和4年度から令和6年度まで  
**【受託者】** 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学（代表研究者）、株式会社ExData、特定非営利活動法人位置情報サービス研究機構